

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
佐藤琢志			
火3、火4			
添付ファイル			

科目の概要	<p>2014年に国連の障害者権利条約への日本の批准が承認された。このことは我が国における障がい者の基本的人権の実現が国連条約の求める水準に到達したとみなされたといえる。このことから、教育者や保育者として、我が国における「共生社会」の理念の実現に向けて子ども達を支える必要があるといえる。</p> <p>本授業では、上述の観点を踏まえつつ、特別支援教育並びに障害児保育等について演習等を交えて授業を展開する。具体的には、障がいのある子どもを支える理念、各障がいの理解と支援、及び家庭や各機関との連携について説明する。</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、障がいの概要 「障がいがある」、「障がい」とは何を指すのかについて学ぶ。</p> <p>第2回 障がいのある子どもの保育の歴史的変遷 障がいのある子ども達がどのような生活をし、社会によってどのような待遇をされてきたかについて学ぶ。</p> <p>第3回 視覚・聴覚障がいの理解と援助 視覚や聴覚に障がいのある子どもの理解と援助について学ぶ。</p> <p>第4回 肢体不自由の理解と援助 肢体不自由のある子どもの理解と援助について学ぶ。</p> <p>第5回 知的障がいの理解と援助 知的障がいのある子どもの理解と援助について学ぶ。</p> <p>第6回 発達障がいの理解と援助 (SLD、ADHD) SLDとADHDの子どもの理解と援助について学ぶ。</p> <p>第7回 発達障がいの理解と援助 (ASD) ASDの子どもの理解と援助について学ぶ。</p> <p>第8回 障がいのある子どもの発達を促す生活や遊びの環境 障がいのある子ども一人ひとりの発達を促すために必要な生活や遊びの環境について学ぶ。</p> <p>第9回 障がいのある子どもとない子どものかかわりと育ち合い 障がいのある子どもとない子どものかかわりと育ち合いについて学ぶ。</p> <p>第10回 統合保育の指導計画 統合保育の指導計画について学ぶ。</p> <p>第11回 個別の支援計画 個別の支援計画について学ぶ。</p> <p>第12回 保護者や家庭への支援 保護者や家庭への支援について学ぶ</p> <p>第13回 専門機関との連携 地域の専門機関との連携について学ぶ。</p> <p>第14回 保育所・幼稚園と小学校との連携 保育所・幼稚園と小学校との連携について学ぶ。</p> <p>第15回 現状と課題、まとめ 障がいのある子どもの現状と課題について学ぶ。全体のまとめを行う。</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障がいのある子どもの支援の歴史や障がいについて正しい考えを述べることができる。 2. 様々な障がいのある子どもについての実態と支援について説明ができる。 3. 教育者または保育者として、関係機関との連携、保護者支援等の現状と課題について説明ができる。
授業の方法	講義も取り入れた演習形式
成績評価の方法	レポート課題：60%、授業時の課題提出物：30%、授業への参加態度：10%
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・特に指定しない。 ・適宜プリントを配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・柘植雅義、「特別支援教育」、中公新書、2013、880円+税 ・尾野明美、「保育者のための障がい児保育-理解と実践」、萌文書林、2016、2000円+税
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・参考書の他、特別支援教育や様々な障がいに関する書籍等を読むこと。 ・障害児保育に関する書籍等を読むこと。 ・前回の授業の復習を必ず行い、各自で理解を深めること。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「演習」科目であることを留意しておくこと。 ・保育士資格の必修科目であることを留意しておくこと。

	・特別支援理解論を履修しておくことが望ましい。
オフィスアワー	月～木曜日の昼休み（12：15～12：55）
担当教員への連絡方法	研究室：4号館602号室 メール：t-sato*osaka-aoyama.ac.jp（*を@にかえる）
その他	